

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		生活機能評価健診事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名	内田秀一郎	
	施策	16	高齢者・障がい者の自立促進と社会参加		所属課	高齢者支援課	担当者名	坂井晴代	
	基本事業	49	高齢者の介護予防の充実		所属班	包括支援センター班	(内線)	2151	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法第115条の45	
		介護	11	1	1	11259		成果優先度評価結果	
									コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	介護保険法が改正された平成18年から実施している介護予防のための施策として、65歳以上の第一号被保険者(要介護認定者を除く)に生活機能評価を実施してきたが、新たな法の施行により生活機能評価のための健診体制も変わることになり、二次予防事業の対象者決定を目的として、第一号被保険者(要介護認定者を除く)の生活機能の確認としての基本チェックリストを配布し、回収を行う。
(開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	①要介護認定を受けていない第1号被保険者全員に基本チェックリストを送付し回収する。②回収した基本チェックリストから二次予防対象者候補者を選定し、介護予防教室への参加を促す通知を行う。
【主な予算費目】	需用費・役務費・委託料
【意見や要望】	65歳以上の市民(要介護者を除く)全員に基本チェックリストを実施した際、「自分は元気であるので、チェックリストに答える必要があるのか?」など意見が寄せられた。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動)22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)	要介護認定を受けていない第1号被保険者に生活機能評価健診を行う。	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 22年と同様だが、名称を「二次予防対象者把握事業」と変更する。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)人 ア 要介護認定を受けていない第1号被保険者 イ	予算の主な増減の理由 法改正に伴う機能評価健診終了による委託料の減
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	要介護認定を受けていない第1号被保険者(65歳以上高齢者)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)(単位) ア 健診受診者(平成23年度~基本チェックリスト実施者) 人 イ 健診受診率(平成23年度~基本チェックリスト実施率) %
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	生活機能の程度がわかる。	③成果指標(意図の達成度を表す指標)(単位) ア 二次予防対象者数 人 イ 二次予防対象者出現率 %
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 生活機能評価により、二次予防対象者(特定高齢者)数を把握でき、今後の各種事業施策に繋がるため。		

(2)各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	
①活動指標	ア 人		8,465	8,960	9,283	9,094	8,784	8,800	8,900	
	イ									
②対象指標	ア 人		1,057	499	600	416	6,345	6,350	6,360	
	イ %		75.1	31.3	35	30.5	72	72	72	
③成果指標	ア 人		486	496	500	416	1,574	1,580	1,585	
	イ %		0	0	0	0	24.8	24.8	24.9	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円	1,528	1,272	824	613	294	294	294
		都道府県支出金	千円	764	635	412	307	147	147	147
		地方債	千円							
		その他	千円	3,056	2,543	1,648	1,224	587	587	587
		繰入金	千円	838	635	412	307			
		一般財源	千円					137	137	137
人件費	(A)事業費計	千円	6,186	5,085	3,296	2,451	1,165	1,165	1,165	
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	3	4	3	4	4	4	0	
延べ業務時間	時間		958	500	500	350	500	500	0	
	(B)人件費計	千円	3,832	1,990	1,990	1,442	2,060	2,060	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,018	7,075	5,286	3,893	3,225	3,225	1,165	

総トータルコスト
全体計画
~ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

事務事業名	生活機能評価健診事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE) ※原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 健診によりいち早く予防事業が取り組み、介護給付費や医療費の削減を図ることに繋がった。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 通年事業であるため、達成は可能である。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 住民にとって、生活機能健診と特定健診あるいは後期高齢者健診が別々に実施となると不便である。また、問診・計測・診察といった同一のものを何回も行うことになり金銭的にも効率性が悪い。同一日実施することにより、健診受診者・率の向上を図っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業がない	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 個人宛に郵送していたチェックリストを世帯毎に郵送し経費の削減を行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 必要最小限の職員で行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 法に基づくものであり公平・公正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 法に基づくものであり適正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

二次予防対象者(特定高齢者)を把握することで、より適切な対象者に対して通所事業など効果的な事業運営につながった。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>△</td> <td>△</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持			△	低下		△	△
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持			△																		
	低下		△	△																		
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 特定高齢者健診システム、介護保険システム、包括支援センターシステムが個々に移動しており、情報共有にあたり、事務時間が多くかかる。																						